

令和5年度 府中市立府中第七小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）
第1学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・話を集中して聞くことに課題がある。 ・平仮名の学習では、促音や拗音、助詞の「は」「を」及び「へ」を正しく使うことに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・掲示物「聞き方名人」を適宜用いて、聞く態度を身に付けられるようにする。 ・日記など書く機会を増やし、その都度指導していく。 	C	B
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・10までの大きい数の分解を間違える児童がいる。 ・求補の計算が出来ない。 ・どちらがどれだけ多いのどちらかを記入しない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・10までの数の分解のカードを作り、繰り返し練習する。 ・求補の全体と部分との関係を把握するため、文章を図に表して解くようにする。 ・文章題を多く解き、問題の答え方を練習する。 	C	B
生活	<ul style="list-style-type: none"> ・虫嫌いの児童がいる。 ・登下校の通路での歩き方、ふるまいが良くなり傘をぶるけた児童や交差点で慌て走り転んだ児童がいた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図鑑などを見て虫について興味をもつ。 ・登下校の通学路での歩き方を再度確認し、安全に迷惑がかからないように歩くようにする。 	B	B
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・けんぱんハーモニカの音程の位置がわからない。指使いがうまく使えていない。 ・正しい高い音程が、とれず音程がずれる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・最初、けんぱんに指を置いて用意してから弾くようにしている。 ・黒鍵を「二つのお山の左側」と歌に合わせて音階の位置を把握する。 ・高い音までドレミファソラシドを練習してから、歌い始める。 	B	B
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に活動しようとする意欲はあるが、活動に差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな用具や材料に触れ、活動の幅を広げる。 	B	B
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な運動を行う中で、経験に差が見られる。 ・できないこと、初めてのことについてチャレンジしようとする意欲が低い。 ・基本的な動きの習得が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・がんばりカードを活用して、取り組みへの意欲をもてるようにする。 ・経験することで、体の基本的な動きを習得できるよう、日常生活や遊びの中に現れる運動遊びや運動を意図的に授業で取り上げる。 	C	B

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。

令和5年度 府中市立府中第七小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）
第2学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・要点を踏まえて話をしたり、聞いたりすることが苦手な児童が多くいる。 ・文章の要点をつかみ、問題に答えることが苦手である。 ・自分の考えや思ったことを文章に表すことが苦手な児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話の要点をまとめて話す活動を多く取り入れたり、短い日記などを書く活動をしたりする。 ・普通の授業の中で、問題の要点を確認しながら答えられるように指導する。 ・考えや思ったことを話したり聞いてもらったりする活動を入れ、自分の意見に自信をもたせる。また、話したことを書く活動もすることで書くことへの抵抗感をなくしていく。 	B	B
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・文章問題の読み取りができない児童が多い。問題の場面を想像できない児童がいる。 ・長さや時間の量感に課題がある。理解力の差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章問題では、問題の重要な語句や数字に着目できるように指導する。 ・実生活の中でも身に付けていけるよう、発問や意識付けを工夫する。 	B	B
生活	<ul style="list-style-type: none"> ・1年生への学校紹介や生き物紹介、野菜や生き物の観察などの活動に意欲的に取り組むことができる。 ・友達のを考えを取り入れて、自分の考えをよりよくしていったり、今までの経験を生かして考えたりするまでには至っていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りのことに関心をもち、発見や自己の気付きが生まれるように問い掛けたり発表したりする時間をもつ。 ・個々の気付きを伝え合ったり、学級全体で交流し合ったりする場面を増やす。 	B	B
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・表現することに興味・関心をもって、授業に取り組む児童が多いが、器楽では基礎的な力に個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアで教え合う活動を充実させる。変化のある繰り返し練習など、児童が楽しみながら行える教材を工夫する。 	B	A
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> ・活動に意欲的な児童が多いが、身近で扱いやすい材料や用具の基本的な扱い方に慣れていない。 ・自由な発想に、課題のある児童が見られ、手が止まってしまったり友達の作品と似ている作品になったしまったりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感覚や技能を働かせる活動や他の教科を通して、材料や用具の扱い方に十分慣れるようにする。 また、活動の前に使い方や片付けの仕方についての説明を十分に示して、見通しをもてるようにしてから行う。 ・創作活動を行う前に、思い付いたことや想像したことをワークシートに記載し想像を広げたり、学級全体で共有をして、友達の意見をヒントにしたりする。 	B	B
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な運動ができる児童が多い反面、チームとしてどのように活動すればよいのかを理解できず、うまくゲームを進めることができない場面がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達や相手の良かったところを見付けたり、友達に自分の考えを伝えたりする活動を多く取り入れられる。 	B	A

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。

令和5年度 府中市立府中第七小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）
第3学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の習得に時間を要する児童が少なくない。漢字テストでは、予告があっても80点以下をとる児童が2割程いる。 書く力は個人差が大きく、伝えたいことや話の内容を明確にして書くことに課題がある児童がいる。 話の内容をきちんと理解することに課題のある児童が多くいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 漢字テストは引き続き、予告を行う。テスト後には復習を行い、確実に習得できるように指導していく。 明確に伝えるために、組み立てのメモのワークシートを活用していく。また、自分の考えを整理できるような活動の場面を多く設ける。 よい話の聞き方を確認し、実践につなげられるようにする。よい聞き方を褒めたり、個別に聞き方を指導したりする。 	C	B
算数	<ul style="list-style-type: none"> 1時間=60分、1km=1000mということは覚えられても、2km=2000mなど活用できない児童が多い。 九九の定着が不十分で、あまりのあるわり算等立式は合っているが、計算が苦手な児童が多く、誤答が目立つ。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常の場面で活用したり、自分の言葉で説明する機会を多く作ったりして、定着を図る。 e ライブラリや計算スキルを活用するなど、反復練習を行う。 	C	B
理科	<ul style="list-style-type: none"> 昆虫や植物に興味をもっており、観察でも意欲的に取り組む児童が多い。観察して終わりだけでなく、観察したときの差異点や共通点を比較する力を身に付けたい。 観察や実験の前に、根拠のある理由を考えられない児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 観察の前に、観察カードの記録だけでなく、比較する対象物として、既習の動植物の振り返りをし、比較できるようにする。 予想は、正しい結果を当てることが目的でなく、日常や生活科の学習での経験を基に、予想していくことを念頭に指導をしていく。 	B	A
社会	<ul style="list-style-type: none"> どの単元も興味をもって取り組むことができるが、社会で学習した世の中の課題を、自分の生活と関連付けて考える力に課題がある。 資料を読み取る力が十分に身に付いていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 教師が身近な話題に触れることで、児童が自己の生活と関連付けて考えられるようにする。 副読本やワークテストなどを用いて、読み取れることを全体で共有する経験を増やし、自信を付ける。うまく読み取れなかった問題は、十分に解き直す時間を確保し、定着を図る。 	B	B
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 表現することに興味・関心をもって、授業に取り組む児童が多いが、器楽では基礎的な力に個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人の技能向上のために、興味もてる工夫をして、基礎的な技能を身に付けていくために、楽器奏法を段階的に進めていく。教材を精選し、実態に応じた課題に取り組み、演奏することに喜びがもてるようにする。 	B	B
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> 意欲はあるが、作品として形になりにくい児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な用具や材料に触れることで、児童の表現の幅を広げるよう指導する。 	B	B
体育	<ul style="list-style-type: none"> 個人の運動は一人一人がよく頑張るが、グループ競技になると、得意な児童だけがプレーしてしまうことがある。 活動に意欲的に取り組んでいるが、動き方のコツを友達に伝えることが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> みんながプレーしないと勝てないルールを作ったり、教え合う場を設定したりする。失敗した時こそ励ましの言葉を掛けられるように繰り返し指導し、声掛けをする。 	B	B

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。

令和5年度 府中市立府中第七小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）
第4学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・物語や説明文の叙述に気を付けて読む力に個人差が大きい。 ・「とめ」「はね」「はらい」など字をよく見て丁寧に書くことに課題がある。 ・既習事項（「は」「を」「へ」、ローマ字、3年生までの漢字など）が身に付いていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・必ず叙述から答えを見つけるように指導する。 ・手本をよく見て書くように指導する。また、家庭との連携を図り、間違っただ字はすぐ直せるようにする。 ・朝学習や宿題等で、前の学年の内容を行い、基礎の定着を図る。 	B	B
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・前学年の学習の定着が不十分で、問題の意味は理解できても、計算に膨大な時間を要する児童が多くいる。 ・全体的に、抽象的な問題では、答えの見通しをもつことが難しく、立式自体が間違っている、その間違いに気づくことが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・eライブラリや計算スキルを活用するなど、反復練習を行う。 ・特に指導が必要な児童は保護者や学習支援員等と連携を図り、指導にあたっていく。 ・ペアで考えを共有したり、説明する活動を通して、問題に対する理解を深める活動を多く取り入れていく。 	B	B
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・学習問題に対して予想を立てることはできるが、根拠をもって考える力に個人差がある。 ・実験結果をもとに、どのようなことが考えられるか論理的に思考する力に課題がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活経験や学習経験と予想の根拠を結び付けて考えられるように、様々な考え方を全体で共有する時間を確保する。 ・結果から分かったことを説明したり、文や図でノートに書き表すなどの活動を充実させる。 	C	B
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・学習した社会的な事象や課題を自分のことと関連付けて考える力に個人差がある。 ・グラフや表などの資料を読み取る力、活用する力に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の生活に関連する資料の提示や発問を具体的にを行う。様々な考え方や見方を学べるようにグループ学習を充実させる。 ・ICTで具体的に資料を提示したり、資料を読み取る際のポイントを確認したりする。 	C	B
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・どんな曲想の楽曲にも、柔軟に取り組む雰囲気がある。発表曲があると、全体的に積極的に取り組むことができる。器楽では基礎的な力に個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・反復練習を多くもち、自信をもって表現できるようにしたり、グループ発表で一人一人の役割をもつことを多くしたりして、技能向上を目指して工夫していく。 	B	B
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲はあるが、作品として形になりにくい児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な用具や材料に触れることで、児童の表現の幅を広げるよう指導する。 	B	B
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・目標とする動きは理解できている児童が多いが、そのための具体的な体の動かし方を考えることが難しい。 ・作戦を立てて協力してゲームに取り組む力に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体の向きや視線の方向など、注目すべきポイントが分かるよう、掲示物やプリントや資料などを用意する。 ・作戦ボードを用意し、視覚的に作戦を立てられるようにする。また、その作戦が有効だったことを振り返る時間を確保する。 ・協力することで得られる良さを振り返りカードなどに書き、全体で共有する。 	B	B

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。

令和5年度 府中市立府中第七小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）
第5学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・学習した漢字(既習・5年)を文章中で適切に使用することが苦手な児童がいる。 ・主語・述語を判別することに課題がある児童が多くいる。 ・自分の考えを整理して、相手に分かりやすく伝える文章を書くことに個人差が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章等で漢字を活用できるように漢字を習得する。また、文章中において、漢字と仮名を適切に使い分けて書くように指導する。 ・主語、述語について、その内容を繰り返し指導する。 ・自分の考えを、相手に的確に伝えるために、文章を組み立てるためのワークシートを活用し指導していく。 	C	B
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・前学年の学習の定着が不十分で、問題の意味は理解できても、計算に膨大な時間を要する児童が多くいる。 ・全体的に、抽象的な問題では、答えの見通しをもつことが難しく、立式自体が間違っている、その間違いに気づくことが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・e ライブラリや計算スキルを活用するなど、反復練習を行う。 ・特に指導が必要な児童は保護者や学習支援員等と連携を図り、指導にあたっていく。 ・ペアで考えを共有したり、説明する活動を通して、問題に対する理解を深める活動を多く取り入れていく。 	C	B
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・科学的な事象についての基礎的な知識が、児童によって学習内容により習得の差が、かなり大きく見られる。 ・実験結果から考察、推論することに課題がある児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活の中や身近なものに直結する学習の中で、科学的な事象についてはこれから履修する様々な単元の中で繰り返し指導していく。 ・実験結果から考察、推論する場面では、小グループでの話し合いや学級全体で共有する場面を確保し、考察、推論する学習を推進していく。 	B	B
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・資料を基に考察することが難しい児童が少なくない。 ・キーワードを使い、論理的な文章に表現することが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料から分かった事実だけでなく、「そこからどんなことが分かるか。」という問いかけを行い、学習の見通しを立てたり、単位のまとめにつなげることができるようになる。 	B	B
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・歌唱では、気持ちが盛り上がると地声になってしまう児童がいる。器楽では技能面で個人差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・変声期の児童に配慮しながら、どんな声でどのように歌いたいのか想いを持たせる。器楽指導では、レベル別に楽譜をいくつか用意して、楽しみながら技能を向上できるようにする。 	B	B
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> ・自信がなく、内容によっては主体的に活動しない児童がいる。 ・用具の扱いが雑な児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・製作過程を大切に、主体的に活動できるように指導を工夫する。 ・正しい用具の使い方を指導する。 	B	B
家庭	<ul style="list-style-type: none"> ・学習意欲はとても高いが、調理器具の扱い方、裁縫の技能などは児童によって差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・互いに教え合う機会を設け、全体の技能を高めていく。特に指導が必要な児童には、休み時間などを利用して個別に指導を行う。また、家庭学習の時間を利用するなどして技能の習得ができるよう、家庭に呼びかける。 	B	A
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・運動経験が少ない児童が全体的に多く、動きがぎこちない。 ・友達同士で話し合っゲームに取り組む力に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・パワフル7を活用し、多様な動きをたくさん経験できる時間を設け、体力の向上を目指すようにする。 ・ゲームの作戦を考える際に、どのように話し合えばよいのかを指導する。また、話し合いを進められる児童をチームに入れるなど、チーム分けも工夫していく。 	B	B
外国語	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲は高いが、技能の差が二極化している。アルファベットを全て書くことができなかつたり、曜日や数字が定着していない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アルファベットテスト実施し、知識の定着を図る。 ・授業中に英単語を見たり、書いたりすることで、少しでもアルファベットの名前と音の違いを区別することができるようにする。 	B	B

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。

令和5年度 府中市立府中第七小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）
第6学年における各教科で取り組む授業改善の具体的な取組

教科	教科の特質を踏まえた課題	課題解決のための授業改善策	達成の状況	
			2学期末	年度末
国語	<ul style="list-style-type: none"> 既習の漢字を文章中で適切に使用したり、正確に音読したりすることが苦手な児童がいる。また、文章中の言語の種類（主語・述語・修飾語）を判別することにも課題が見られる。 事実を受けて、それに対して自分自身はどう思うかを整理して、相手に分かりやすく伝える文章を書いたり、話したりすることに個人差が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常的に漢字を活用できるように、辞書をすぐに使えるような環境を整える。文章の中で、漢字と仮名を適切に使い分け、文字に注意して書くように指導していく。主語、述語、修飾語など言語の種類についても繰り返し指導し、文章を分かりやすく詳しく書く指導の充実を図る。 自分の考えを的確に伝えるために、組み立てメモのワークシートを活用していく。また、友達から助言をもらい、自分の考えを整理できるような活動の場を多く設ける。 	B	B
算数	<ul style="list-style-type: none"> どの単元も既習事項の定着ができていない児童が多く、スパイラルの学習が難しい。 割合を使った文章問題が理解できない児童が多い傾向にある。 分数のたし算やひき算は、5年生の学習が十分習得できず、約数、最小公倍数と関わっていることで、通分や約分が苦手な児童がいる。 小数のわり算で、小数点の移動が上手く出来ずに、上手く計算できない児童がいる。 単位変換が苦手で、単位の混じった計算を上手くできない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 何を求める問題なのかを意識し、計算の反復練習を行う。 また、数直線を書くことや図や表で表したりすることを習慣付けて、そこから立式することに慣れる。 分数のたし算や小数のわり算など、四則計算について、朝学習の時間に、既習内容の計算問題を繰り返し行う。 単位換算のプリントを活用して、常時音読したり、反復練習をしたりする。 	B	B
理科	<ul style="list-style-type: none"> 事象から課題づくり、実験計画を立てることは上達したが、実験結果から考察、推論することに課題がある。 科学的な事象の名称など基礎的な知識が、学習内容により習得の差が大きく見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 身近な生活に関わる学習については、既習事項として記憶は確かであるが、あまり意識して活用する機会が少ない科学的事象については様々な単元の中で復習的に扱っていく。 自分の考えをまとめる、小集団での話し合いや全体で共有する時間を確保し、考察する活動をより充実していく。 	B	B
社会	<ul style="list-style-type: none"> 歴史を俯瞰的に見て、つながりを考えて学習する意識が希薄である。そのため、学習内容の定着率に課題が見られる。 資料を調べて事実をまとめる学習には意欲的に取り組む様子が見られるが、複数の資料を関連付けて考察していくことには課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業導入では前時の振り返りを行い、つながりを意識できるようにする。 関連のある複数の資料を提示し、そこから比較・関連付けて意味を多角的に考えられる学習場を設ける。また、少人数や全体で検討し、共有していく活動も行っていく。 	B	B
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 合唱、合奏には意欲的に取り組んでいるが、創作活動には苦手意識がある児童が多い。 器楽では技能的な力の差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> 目的意識をもたせ、集中して学習できるように、個々に支援していく。 グループアンサンブルやグループ合唱をして、個々の課題や力量に合った内容で発表しあい、卒業に向けて、合唱、合奏の意識を高くもてるようにする。 	B	B
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> 意欲的に活動する学年ではあるが、協調性の面で欠ける児童がいる。 用具の扱いが雑な児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> グループ活動の機会を増やすなど、他者を受け入れる場を設定する。 正しい用具の使い方を指導する。 	B	B
家庭	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活の中で、学習したことを家庭で実践する児童が少ない。 裁縫の学習では、意欲的に学習に取り組み、自主的に作品を製作しようとしている。玉結びや玉止めの技、ミシンの操作などが難しい児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習したことを自分の生活に生かせるように実践例を提示し、家庭にも協力を呼び掛ける。 個別に対応する時間を設けたり、友達同士で教え合う時間を設けたりしながら、技術面に対して自信をもてるように指導していく。 	B	B
体育	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活の中での運動経験の不足や社会体育での経験などから、運動の能力差が大きく見られる。 マット運動など器械体操領域における非日常的な動きや運動能力に課題がある児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 休み時間や特別活動の時間に体を動かす遊びなどを取り入れるようにする。 授業の中で、主運動に入る前に慣れの運動の時間を取り入れ、運動の特性に触れながら運動に親しませる授業を展開する。 仲間と共に、運動に親しむ風土作りを継続する。器械運動領域の運動が苦手な児童も運動が好きになるように、ルール工夫をする。また、スモールステップで動きや技を学ばせる授業や、運動の 	B	B

令和5年度 府中市立府中第七小学校授業改善推進プラン（各学年の取組）

		特性を、誰でも味わえるようなルール作りで、少しでも児童ができたと感じられるように指導する。		
外国語	<ul style="list-style-type: none"> ・インタラクティブな学習ができるように、コミュニケーションに用いる会話文を中心に指導し、英語の音、独特なリズムに親しみ、既習事項を基に、新しい表現をどんどん吸収している状況である。 ・インプットされたことを、その状況に応じた英語表現を使いまわして、コミュニケーションを図るレベルには達していない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の打ち合わせを通して、ALT と担任が連携し、既習事項を生かして英語のやり取りができる場面を適宜設定し、コミュニケーション能力のスキルアップを目指す。 ・授業後に振り返りを行い、児童の実態を把握し、指導に生かしていく。 ・英単語の知識の獲得には、努力を積み重ねられるように励ましていく。 	B	B

※達成の状況は、A：十分達成できている、B：概ね達成できている、C：あまり達成できていない、D：達成できていないで、2学期末、年度末に評価する。